

留学体験記

〈中国 南京大学での留学生活〉

外国語学部 中国語学科4年 林 智蓉

私は、2024年9月1日から2025年6月26日まで中国、江蘇省に位置する南京大学に約10ヶ月間交換留学をしました。今回の体験談では、私の留学をしたと思った背景から留学先紹介と留学での学び及び生活、そして留学から得た経験についてお届けしていきたいと思います。

まず初めに、私が留学をしたいと思った背景について紹介します。私は、両親が中国人という環境で育ち、大学でも中国語を専攻していたので、留学前もある程度読み書きができていて、中国語能力検定HSKでは最高レベルの6級を取得していました。しかし、日常生活の中では日本語を主に使っていたこともあり、授業内や中国人留学生との会話以外はほとんど中国語を使用する機会がないと感じていました。また、中学生の頃から日中関係のお仕事に携わりたいと考えていたので、自身の中国語における弱点であるスピーキング力とライティング力をより向上させたいと考え、留学することに決めました。

次に、留学先として私が南京大学を選んだ理由として、1つ目は、南京大学が中国でも教育や研究においてトップレベルであり、更に高度な中

国語を学べることができると考えたからです。2つ目は、留学前から南京は、日中戦争や南京大虐殺などの歴史的な経緯もあり、反日意識が強いと聞いていたので、私が南京に住んでいる中国人と交流をすることで、日中の友好関係を少しでも促進できるのではないかと、という些細な思いがあったからです。



玄武湖の景色



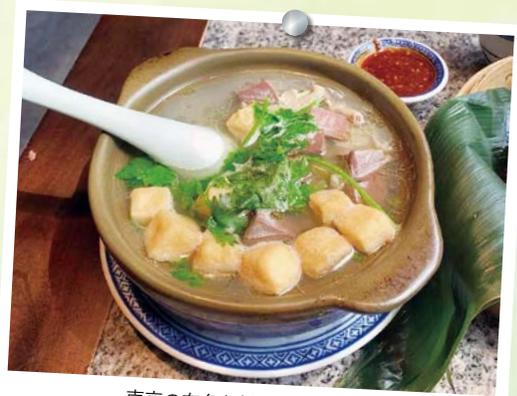
南京城壁の上に登った時の様子

私が留学した南京は中国の古都であり、歴史あふれた建築物に囲まれた都市です。中でも、玄武湖や度重なる戦争の時に敵から南京の街を守るために建てられた城壁が有名な観光名所として挙げられます。城壁は南京の至る所に現存しており、留学中には「神策門」「玄武門」「解放門」などに行きました。実際に城壁の上を歩いていると当時の鉄砲の模型が残っていたりして、当時の様子が伺えました。

そして、私は留学時に中国語語学向上を目指す言語コースの授業の他に、現地の中国人学生と一

一緒に受ける授業も受講していました。言語の授業を通して、自身のスピーキング力とライティング力を伸ばすことができただけでなく、東南アジアやヨーロッパから来た多くの留学生とも仲良くなりました。現地の学生との授業では本課程の学生が履修する都市社会学や日中・中日翻訳、中国明清社会学などについて学ぶことができ、中国の文化や社会のあり方について改めて理解を深めることができました。

生活面においては、授業を主に受けていた鼓楼キャンパスから約1時間移動したところにある仙林キャンパス内の留学生寮で生活を送っていました。留学生寮は1部屋2人で共同生活をしました。私のルームメイトは日本人だったので、とても仲良くなることができました。



南京の有名な料理「鴨血粉絲」



南京紅山動物園にいたパンダ

また、長期休暇には南京にある観光名所を友人らと赴いたり、一人で南京以外の成都、広州、廈門、福州などに行き、その都市の文化や暮らしを肌で感じることもできました。

この他に、同じく南京にある三江学院と日中交流も行いました。交流を通して現地で日本語を学んでいる中国人学生と深くかかわることができま



南京の街並み（漢口西路）

した。一緒にケーキ作りをしたり、日本語の歌を歌ったりと、とても貴重な体験をすることができました。また現地での授業と並行して、日本の就活や卒論の下準備なども行わなければならず、時間的に大変な日々もありましたが、この留学生活での経験は私の大切な人生の糧となるものと思います。もし留学を悩んでいる方がいましたら、是非留学をしてほしいです。留学は単なる勉強のためだけでなく、自身の視野を広げるチャンスです。日本以外の国に足を踏み入れることで今まで見てきた世界とは異なる世界を見ることができ、ぜひ皆さんも留学に「挑戦」してみませんか。



南京大学主催のイベントに参加したときの賞状